

vol. 42

The News Letter

2020 WINTER

一般社団法人 日本歯科審美学会
General Incorporated Association Japan Academy of Esthetic Dentistry

巻 頭 言

ニュースレターへの期待

一般社団法人日本歯科審美学会 副理事長 石川功和



本来であればこのニュースレターでは、奈良での開催を準備していた第31回日本歯科審美学会・第39回日本接着歯学会合同学術大会の成果をご報告していたところですが、新型コロナウイルス感染症への感染防止の観点から、誌上開催（ポスター発表のみ電子的方法を用いた「e-ポ

スター」にて実施）となりました。

様々な学会、催事のあいさつでは常套句のようにこのような挨拶がされたと思います。ニュースレターの巻頭言の執筆にあたり皆様食傷気味とは思いましたがこのような事態は記憶に残さなければと思いあえて書き出しとさせていただきました。

このような状況下においても学会の各委員会では開催形成、規模を変えながらも活動しております。各委員会の皆様には感謝申し上げます。

さて日本歯科審美学会においては学術雑誌としての学会誌と広報誌のニュースレターの2種類の刊行物があります。

学会誌は会員の投稿論文を主な内容とする研究成果発表のための刊行物となっており、学会誌掲載論文は研究業績として高く評価されることとなります。

一方広報誌としてのニュースレターは形こそ小さいですが、学会の活動、今どのような事をしているか、どのような事をしようとしているかを会員のみならず広く告知し学会の存在価値を高め、会員同士の結束をより強いものへと導いていると確信しております。今後も各委員会の活動報告を逐次取り上げ、学会の繁栄にニュースレターを活用していただければと思います。

第32回 日本歯科審美学会学術大会のご案内

日本大学歯学部保存学教室修復学講座 大会長 宮崎真至



一般社団法人日本歯科審美学会の第32回学術大会は、令和3年11月13日(土)、14日(日)の両日にわたって東京都江東区有明に位置するTFTビル西館「TFTホール」で開催を予定しております。現状では、十分な感染対策を施すことによって対面式の学会とするべく、準備を進めているところです。

現在、巷ではGo Toトラベル、Go TO EatあるいはGo To商店街など、人の往来をコロナ禍以前近くまで戻す努力が進められています。また、大学における授業形式に関しては、文部科学省から「新型コロナウイルス感染症の拡大防止と学生の学修機会の確保の両立」を目指し、「感染対策を講じた上での面接授業の実施が適切と判断されるものについては、面接授業の実施を検討すること」という周知がされています。長い期間にわたって遠隔授業が行われ、その有効性を認めながらも、学問における人的な交流の重要性が強調され、教員および学生同士のコミュニケーションの機会の設定が強く望まれています。学会が主催する学術大会においても同様であり、リモート開催の学術大会では得られない人的交流を、多くの会員が望んでいるはずです。

今回の学術大会のテーマは「Challenge：歯科における審美の可能性を探る！」です。このテーマは特に感染症を意識したものではなかったものの、期せずして適切な感染対策を講じる



学会会場のTFTビル

ことで学術大会を行うという方向性を示すことにつながるテーマとなっています。感染症対策が適切に行われているならば、学術大会が多くの参加者を迎えて開催することが可能なはずですが、もちろん、これまでとは異なる形式となる可能性は大きいのですが、会員が相互に情報交換する場としての場を提供することができると思っています。

大会の概要は、多岐にわたるとともに目覚ましい進歩を遂げている歯科における審美治療は、歯科治療をリードするものです。そこで本学術大会では、最新の歯科審美治療における情報を得るとともに、その臨床の実際を体得できるような場となることを目指しています。さらに、歯科治療において審美が果たすべき役割について議論を交わすことができるような場を提供することを目的としています。講演では、審美歯冠修復をメインとして、診断から治療計画を含み、デジタルデンティストリーという現在の歯科臨床における最前線についても語っていただく予定です。もちろん、歯科技工士とともに歯科衛生士との共有すべきテーマに関しても、それぞれのセッションを設ける予定です。会期は2日間ということですが、できるだけ余裕を持ったスケジュールとしながらも、可能な限り会員同士の意見交換が可能なプログラムとしたいと考えています。また、研究発表に関してはポスターを用いた形式とすることで、いつでもその内容を確認できるようにするとともに、適切な距離を保った状況での質疑応答が可能な状況を提供できるようにしたいと思います。

懇親会の開催を含め、まだ不確定な部分が多いのが現状ではありますが、多くの会員が参加するとともに、参加することで満足が得られるような学術大会の運営に努めていきたいと考えております。また、学術大会の開催に関してのご意見等がありましたら、学会事務局を通して、あるいは直接当方までご連絡いただけましたら幸いです。



会場周辺

学術大会報告

第31回日本歯科審美学会学術大会を終えて

大阪歯科大学歯科保存学講座 大会長 山本一世



『元号が令和となって2年目となる来年、第31回日本歯科審美学会学術大会を開催させていただくこととなりました。会期は2020年10月3日(土)、4日(日)の2日間、会場は奈良県の「奈良春日野国際フォーラム 薨〜I・RA・KA〜」です。この大会は第39回日本接着歯学会学術大会との合同開催で、接着歯学会側の大会長は本学会でもお馴染みの、大阪歯科

大学の末瀬一彦先生です〜』

上の文章は昨年冬に発行されたニュースレター vol. 40に掲載の、「第31回日本歯科審美学会学術大会のご案内」の冒頭に書かせていただいたものです。思えば、昭和大学の真鍋厚史教授が主宰された第30回学術大会が大変成功裡に終了した直後あたりの時期で、「いよいよ来年は奈良で末瀬先生と合同大会だなあ」と、まだ半分は漠然と考えておりました。あの当時、現在のこの状況を誰が想像し得たでしょうか……。

予定通りであれば、平成19年に寺田善博先生が博多で開催されて以来の合同大会が奈良の地で開催されるはずでした。4月上旬に緊急事態宣言が出された後も、秋までにはなんとかコロナ禍が収束することを祈念して開催準備を進めておりましたが、会員の皆様や会場周辺の方々の安全を完全には保証し得ないと判断し、接着歯学会の末瀬大会長と熟考の末、7月に通常開催を断念し誌上開催に変更しました。参加登録をいただいた741名の方々をはじめ、参加を予定されていた皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げますとともに、変更の決定が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。また今回は抄録とともに、一般発表をe-ポスターとして開催予定の10月3日、4日の2日間配信させていただきましたが、直前になってからの発表形態変更にも関わらず、本学会から39演題、接着歯学会から32演題ものご応募を頂戴しました。演者の皆様には深く感謝申し上げます。さらに13頁にもおよぶ講演抄録を執筆いただきました特別講演の山下敦先生をはじめ、誌上発表いただいた日本歯科医学会会長の住友雅人先生、教育講演の矢谷博文先生、小峰太先生、シンポジウムの坪田有史先生、峯篤史先生、陸誠先生、宮内修平先生、田上順次先生、桃井保子先生、企画講演の大槻昌幸先生、山田尋士先生、学術講演委員会企画セミナーの大谷一紀先生、新谷明一先生、ハンズオンセミナーの宮崎真至先生、酒井李恵

先生、馬場一美先生、伊原啓祐先生、歯科衛生士セッションの北原文子先生、倫理講習会の榎則章先生、市民公開講座の藤澤政紀先生、奈良陽一郎先生、宝田恭子先生にも厚く御礼申し上げる次第です。

なお今回の学術大会は、大会参加証をもって学会に参加したこと、またセミナー・シンポジウムについては、抄録を読むことによって受講したものと認められます。事前参加登録された方々には、参加証とともに「認定医講習会・認定士講習会・ホワイトニングコーディネーター更新講習会受講証」を送付しておりますので、資格申請・更新時に参加証明としてご利用ください。この受講証は、認定医制度では2単位、認定士制度・ホワイトニングコーディネーター制度では1回分の証明となります。また従来、学会会場で行われていた会員カードスキャンによって学会ホームページのマイページで参加履歴等を確認するサービスに代わり、専用URL(参加登録された方々にアドレスとQRコードをお送りしています)にご入力いただいたデータと参加申込時のデータが合致した場合、学会ホームページのマイページに登録されます。この場合、とくにeメールアドレスについては参加申込時に使用されたものを入力するようご注意ください。なお認定医、認定士、ホワイトニングコーディネーターの申請・更新には受講証とともに参加証のコピーが必要です。マイページへの登録のみでは参加証明とはなりませんのでご注意ください。

最後に、この“想定外の”学術大会をご支援くださったすべての皆様に御礼申し上げ、報告とさせていただきます。



学会功労賞受賞者のご紹介

学会功労賞(2020年度)を受賞して

新潟大学名誉教授 福島正義

この度は学会功労賞を受賞する栄誉を得たことに対し、ご推奨いただいた会員ならびに関係者各位に深く感謝申し上げます。そして、共に研究してきた仲間と喜びを分かち合いたいと思います。

思い返せば、う蝕の保存修復学を出発点とした私の研究のライフワークは「悪いところだけをとって、もとの白い歯に直す、しかも痛くなく、早く、快適に、安く・・・。」の実現であったように思います。その実現には歯科接着を基盤にした1978年以降の総山孝雄先生・細田裕康先生の「無痛・無刺激性修復」の概念が根底に流れていました。1980年代には水銀汚染対策として歯科用アマルガムの廃止をめざした白歯用コンポジットレジン修復、テトラサイクリン変色に代表される各種変色歯に対するラミネートベニア修復や漂白法、1990年代にはメタルフリーをめざしたセレックシステムによるCAD/CAMセラミック修復などの基礎的・臨床的研究を岩久正明先生(元会長)の下で行ってきました。また、その間、大学病院に国内初の変色歯外来(1995-2018)とCAD/CAM外来(2001-2018)を開設しました。保険診療におけるここ数年の金パラ脱却の動きは歯冠色修復材料の適応拡大をもたらしています。白い歯を白く治すという当たり前のことが国民に広く提供できるようになりました。本学会の創設期から研究発表と学会運営に関わりながら、歯科をめぐる社会情勢がめざしてきたライフワークに近づいていることを実感しています。

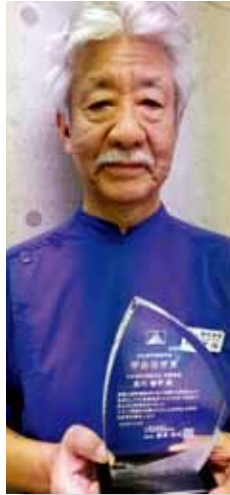
私は変色歯外来の臨床に基づく質的研究により、変色歯の審美治療は患者の「心の変色」を治すことにつながり、患者の人生を変えうることを確認しました。そして、歯科審美治療は「学理」、「心理」および「倫理」の3つの「理」を強く意識すべきであることを悟りました。今後、歯冠う蝕と歯の早期喪失の減少傾向が続く中で、口腔の健康感・自然感への要求は一層増加するでしょう。その意味で日本歯科審美学会の役割はますます重要になると確信しています。



学会功労賞受賞者のご紹介

学会功労賞を受賞して

日本歯科審美学会顧問・みやうちデンタルクリニック院長 宮内修平



この度は、学会功労賞という栄えある賞を頂き、身に余る光栄に思うとともに誠に恐縮に思う次第です。と言いますのも、現在は顧問を拝命いたしておりますが、これまで種々の役職に携わって参りましたが、然したる貢献も出来ず大変心苦しいのが本音であります。

さて、当学会での小生の足跡を振り返ってみますと、2000年からセミナー委員や認定医審議会委員長等々を歴任し、2010年から副会長を4年間務めた後、2014年に開業医として初めての会長(第10代)を拝命いたしました。開業医の身で会長職を務めることなど本来不可能に近いのですが、何とか職務を遂行出来た

のは他でもない古巣の阪大1補綴から秘書役に若林一道先生を当てていただいたお陰です。

従来長らく任意団体であった日本歯科審美学会が2015年に念願の法人格(一般社団法人)を取得しましたことは誠に記念すべきことと思います。これは、富士谷盛興先生を中心に関係の皆様のご多大なるご尽力の賜と深く感謝いたしております。従って、会長として2年目の2015年から2016年までの2年間は理事長(初代)を務めさせていただきました。この計3年間、無事に会の運営が出来ましたのはひとえに諸先輩方のご指導と役員はじめ多くの会員の皆様のご支援があったからこそでございます。

また、JAED会長として3年に亘って韓国ソウル市で開催のKAED学術大会への参加は小生が初めてのようで、KAEDの会員の皆様にはことのほか歓迎されました。特に、盛大に開催されましたKAED創立30周年記念パーティーにご招待いただいた際、ステージで歌わせていただいたことは人生においても思い出深い1ページとなりました。姉妹学会として双方の友好のために多少の貢献が出来たのではと思っております。

恥ずかしながら、任期中に、学会の発展および会員の向上のため十分なことが出来なかったことは心残りです。今後、益々理事長を中心に役員の方々にご尽力いただき、名実ともに日本の、世界の審美歯科界をリードする学会を目指して欲しいものです。

優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀臨床論文賞を受賞して

明海大学歯学部 機能保存回復学講座 歯科補綴学分野 准教授 三浦賞子



2019年度日本歯科審美学優秀臨床論文賞に選出いただきましたことを大変嬉しく思います。

本症例報告は、上顎右側側切歯欠損による審美障害および咀嚼障害に対して、ジルコニアフレームに陶材を前装した全部被覆型のシングルリテーナーカンチレバー2ユニットブリッジによる審美改善を行った症例報告であり、私が2016年に「歯科

審美」に報告した認定医ケースプレゼンテーション症例のその後の経過報告となります。2010年に前歯部開咬に対して上顎前歯部(6歯)にポーセレンレイヤリングジルコニアクラウンを装着後、その約6年後に上顎右側側切歯が歯根破折し、抜歯に至りました。欠損した上顎右側側切歯の両隣在歯にポーセレンレイヤリングジルコニアクラウンが装着されていることから、既存のクラウンを可及的に温存することを目的に、シングルリテーナーの2ユニットカンチレバーブリッジによる欠損補綴治療を行いました。ブリッジの支台歯は、歯根表面が大きい上顎右側犬歯を選択し、ジルコニア材料および築盛陶材は既存のクラウンと同様のものを使用し、現在までのところ補綴装置のトラブル、歯周疾患、う蝕、顎機能異常等の問題は認めず予後は良好です。

カンチレバーブリッジは、日本での適用頻度は少ないですが、海外では少数歯欠損における補綴方法のオプションとなっており、良好な長期臨床経過が報告されています。今後さらに、このような症例報告を発表し、歯科審美学の学術的および歯科医療技術の発展に寄与したいと考えております。



優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀奨励論文賞を受賞して

東京医科歯科大学う蝕制御学分野 盧山 晨



この度は、2019年度歯科審美優秀奨励論文賞という大変栄誉ある賞をいただき、とてもありがたく思っております。私が所属しております東京医科歯科大学大学院う蝕制御学分野は、田上順次教授のもと臨床に関連した研究テーマを中心として歯質保存的な、う蝕治療法を世界に先

駆けて確立してきました。私は北海道大学の学生の時に、当分野の田代浩史先生の授業を拝聴し感銘を受けました。そこで、う蝕治療の世界的権威の田上順次教授のもとでぜひ学びたいと思ひ、2016年に入局させていただきました。

レジンコーティング法は、間接修復法において、窩洞形成直後、印象採得前に歯質接着システムを用いて露出した象牙質にコーティングを行い、歯髄を保護するだけでなく、象牙質接着性、辺縁封鎖性を向上する手法で、1990年代より多くの研究報告が行われてきました。

また、近年のデジタルデンティストリーの発展は著しく、CAD/CAMブロックを用いて、窩洞形成から修復物の装着まで一回の来院で終了するsingle visit treatmentが可能となっております。私の研究においては、CAD/CAMシステムとレジンコーティング法を組み合わせることにより、歯質残存量や使用するレジンセメントに応じた臨床指針を提示してまいりました。田上順次教授に、活動の基本は臨床であり、臨床に関連した研究テーマを優先し、臨床現場の感覚を重視するようにと教えていただきました。そのご指導が、今回の受賞に至ったと思っております。最後になりましたが、朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯冠修復学の二階堂徹教授、直接ご指導いただいた高橋礼奈助教はじめ多くの先生方にご指導いただきましたことを深く感謝申し上げます。

今後は光学印象に範囲を広げて研究していきたいと思ひます。そして、臨床に則した研究を行い、歯科審美学の発展に微力ながら貢献できればと思っております。

優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀奨励論文賞を受賞して

札幌市 医療法人仁友会 日之出歯科診療所 池田欣希

この度は2019年度優秀奨励論文賞を賜り、大変光栄に存じます。

本論文は、歯間空隙をダイレクトボンディングで修復する際に、2つのシリコンガイドを使用する新しい臨床技法を用いた症例報告です。正中離開による審美障害に対して、矯正歯科治療やラミネートベニア修復等の選択肢も存在しますが、ダイレクトボンディングを選択する場合も多いと考えられます。このような症例に対し、術前に作製したシリコンガイドを用いる術式では、接触点を含む隣接面形態を正確に付与することは困難でした。そこで、従来のシリコンガイドに加えて、隣接面充填用シリコンガイドを作製し、併用することでその問題を解決しようと考えました。正中離開症例において、従来法と比較して2つのシリコンガイドを用いる術式の優れている点は、片側の歯冠形態を確実に決定することができるため、隣在歯の形態回復も容易となる点です。そのため、従来法よりも術前に計画した形態の再現性が高く、治療時間も短縮できます。今後改良の余地はありますが、とくに正中離開などの歯間空隙閉鎖をダイレクトボンディングで行う場合に第一選択となりうる有用な方法であると考えております。明日からの臨床でこの技法を用いていただけたら幸いです。

今後も、私自身、歯科医師として、一人一人の患者のために常に考え、イメージーションを絶やさずに診療に向き合いながら、歯科審美学の発展に貢献できるよう努力していく所存であります。

最後に、日頃より私を支えてくださっている日之出歯科診療所の皆様に深く感謝申し上げます。



優秀発表賞受賞者のご紹介

デンツプライシロナ賞を受賞して

明海大学歯学部 機能保存回復学講座 歯科補綴学分野 准教授 三浦貴子



日本歯科審美学会第30回学術大会に於いてデンツプライシロナ賞に選出いただきましたことを大変嬉しく思います。

近年のデジタル技術の発展に伴い、CAD/CAMにより製作した補綴装置の臨床応用が一般的となってきました。CAD/CAMによる製作法は、ブロックあるいはディスクを削り出して製作する切削加工法が主流ですが、

3D printingを応用した積層造形法(Additive manufacturing)は、必要な材料を適量添加して盛り上げながら成形する方法であり、切削加工法と異なり材料に未使用部分が少なく、環境に優しい技法として近年注目されています。現在、積層造形法が応用されているのは有機材料を用いた診断用模型、サージカルガイドなどの製作です。また、コバルトクロム合金の金属粉末を用いた全部金属冠やクラスプ、金属床などの積層造形の歯科応用も始まっています。一方でジルコニアを用いた積層造形法の知見は未だ乏しく、臨床応用は進んでいないのが現状です。そこで今回の発表では、積層造形法により製作したジルコニアクラウンの表面粗さおよび歯冠形態再現性について、切削加工法のクラウンと比較検討を行い、評価しました。その結果、積層造形法にて製作したジルコニアクラウンの表面粗さは、切削加工法のクラウンと比較して小さく、加工精度に優れていることが明らかになりました。また、歯冠形態再現性については、クラウン設計時の補正值の検討やデータの編集が必要であると考えられたため、今後さらに検討を続けていく予定です。

末筆ですが、本研究に関わった全ての方に心より感謝申し上げます。



委員会報告

編集委員会

会員の皆様には、平素から「歯科審美」の発行にご協力頂き有難うございます。2020年9月に「審美歯科」第33巻第1号を発行しました。この号では、原著論文がありませんが、臨床：症例報告2編と特集3編の合計5編の論文が掲載されています。今回の特集では、「審美歯科治療における歯科技工」をテーマとして、歯科技工士3名の先生からご執筆いただきました。紹介文に記載されているように、歯科技工士は、形態美、色彩美および機能美の調和した補綴物の作製に多大なる貢献をされています。是非ご一読頂き、日々の審美歯科治療にお役立てて頂きたいと思っております。

一般社団法人日本審美歯科学会は、認定分科会から専門分科会への昇格を目指しています。昇格には「歯科審美」に年間20編以上の原著論文が必要になります。ただし、著者の中に本学会の会員を含み、本学会の活動<学術・臨床>と特に関連するPubMed掲載の英語論文も審査対象になります。現在、該当する英文論文を調査中であり、2019年掲載された英文論文は30編程度になる見込みです。会員の先生で該当する論文がございましたら、事務局にご連絡ください。

「歯科審美」の充実を図るには、会員の皆様から多数の論文投稿が必要不可欠です。今後とも、ご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。
(委員長 遠藤敏哉)

国際渉外委員会

日本歯科審美学会(JAED)は、IFED(International Federation of Esthetic Dentistry)およびAAAD(Asian Academy of Aesthetic Dentistry)に組織加入しています。また、JAEDはアメリカ(American Academy of Cosmetic Dentistry)および韓国(Korean Academy of Esthetic Dentistry)



IFEDのWebページより引用

の学会と姉妹協定を結んでおり、演者や論文の交流を進めています。

2020年は、Covid-19の影響で多くの学会がキャンセルあるいは延期になりました。例えば、AACD年次大会（オランダ）はキャンセル、AAAD（アジア歯科審美学会、ソウル）は延期、KAED年次大会は、オンデマンド方式のweb開催になりました。2021年は、AACD年次大会が4月にコロラドで、IFED大会が10月にアブダビで開催予定ですが、通常開催になるかどうかは今後の状況次第と思います。審美関連の国際学会情報は、JAEDホームページに掲載いたします。ぜひご覧ください。よろしくお願いいたします。（委員長 中村隆志）

歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士 学術講演委員会

学術講演委員会では会員の皆さまをはじめ、全国の歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の皆さまへ学術セミナーを通して最新の審美歯科医療に関します情報をお伝えすべく、学術セミナー講演企画・運営を担当しております。

今期におきましては、既に本学会ニュースレターVol.40, 2019 Winter, Vol.41, 2020 Summerにて、今般の新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の感染拡大の影響を受けまして、第1回、第2回の学術セミナー開催中止のご報告をいたしました。

そこで、学術講演委員会では、2020年10月2日に初めてWebシステムを用いまして、今期第4回委員会を開催いたしました。COVID-19による社会情勢に負けずに、皆さまへ新しい方法で情報発信をしたく熱い議論が交わされました。その後、理事長、副理事長はじめ関係各位ならびに所掌の委員会との連携を図りながら、従来の集合型開催に替わるものとして、Web開催による学術セミナーを検討していくことになりました。

現在、少しでも早く皆さまに学術セミナーをお届けするためにも、鋭意準備を進めております。詳細が決定しましたら、学会ホームページ等を通じて、皆さまにお知らせ致しますので、どうか、お待ちいただきますようお願い申し上げます。

（学術講演統括委員会 統括者 武部 純）

表彰選考委員会

表彰選考委員会は、2020年学会功労賞受賞者として福島正義先生（昭和村国民健康保険診療所）と宮内修平先生（大阪市開業）をご推薦いたしました。両先生には、本学会に対する長年のご貢献に心から感謝申し上げますとともに、これからも引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

2019年度の優秀研究論文賞は該当者なしとなりましたが、優秀臨床論文賞は三浦賞子先生(明海大学歯学部歯科補綴学分野)の論文「シングルリテーナーカンチレバー2ユニットブリッジによる審美改善(32巻2号,142頁-146頁,2020.)」に決定いたしました。三浦先生は昨年の第30回学術大会における2019年度優秀発表賞(デンツプライ賞)とのダブル受賞となりました。また、優秀奨励論文賞は池田欣希先生(医療法人仁友会日之出歯科診療所)の「2つのシリコンガイドを用いたダイレクトボンディングによる上顎前歯部歯間空隙閉鎖症例(32巻2号,135頁-141頁,2020.)」と盧山農先生(東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科う蝕制御学分野)の「Single visit treatmentにおけるレジンコーティング層とCAD/CAMレジンブロックの厚みがレジンセメントの接着性能に及ぼす影響(32巻2号,111頁-118頁,2020.)」に決定いたしました。

これらの先生方は本年の第31回学術大会において顕彰申し上げる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学会は誌上開催、表彰式は中止ということになり大変残念です。受賞された先生方にはこの場をお借りして心からお祝い申し上げます。

(委員長 日野年澄)

.....

規則検討委員会

本学会が平成27年4月1日付で一般社団法人化して早くも5年余りが経ちました。この間、任意団体時の規則・細則、内規や申合せ等を定款に整合するよう更訂し、それらを実際に運用しながら、業務執行をはじめとする学会運営が円滑に進むよう問題点を鋭意修正して参りました。また、藤澤理事長の体制となり、国内出張旅費に関する規定(改正)、海外出張旅費に関する申合せ(改正)、認定医制度施行細則(改正)、新しい表彰制度(制定)、優秀発表賞及びスタートアップ発表賞の投票規則(改正ならびに制定)に関する各種規則等の発効に向け、規定文の整備を行いました。

今後もそれら規定文の更なる完成と円滑な運用を図るべく活動して参ります。なお、当委員会のメンバーは、委員長：富士谷盛興、副委員長：吉山昌宏、委員：伊原啓祐、岸本崇史(幹事兼任)、小峰 太、宮崎真至、向井義晴(敬称略、五十音順)です。どうぞよろしく願い申し上げます。

(委員長 富士谷盛興)

広報委員会

広報委員会では年2回のニュースレターの発行、およびホームページの更新を行っています。新型コロナが収束する見通しはたたず、第3波がやってくる中、皆様のお力添えにより、通常通りニュースレター第42号を無事に発行することが出来ましたことを深く感謝申し上げます。本号では、石川功和副理事長からの巻頭言、第32回日本歯科審美学会大会案内、受賞者紹介などの内容が掲載されていますので、是非ご一読ください。

ホームページやメール配信は、学会と会員の皆様との間で、最新で速やかな情報の共有に役立つと考えておりますので、定期的なホームページの閲覧、および、学会からのニュースメールが配信されました際には、その内容をご確認いただけますよう、よろしくお願いいたします。

現在、広報委員会では大きなミッションとしてホームページのリニューアルを進めており、本年度内での移行を予定しております。また、本ニュースレターに関しましても、今後は電子媒体での配信に切り替えていく予定となっております。新しいホームページ、情報の電子媒体化、および会員情報の管理などによりユーザビリティの向上、迅速な情報の発信を目指しています。

会員の皆様に有益な情報をお知らせできるよう頑張っていきますので、広報委員会の活動にご助力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(委員長 若林一道)



現在のホームページ

速報！加藤喜郎名誉会員が瑞宝中綬章を受章されました

本学会名誉会員である加藤喜郎先生（日本歯科大学名誉教授）におかれましては、2020年秋の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章されました。

瑞宝章は国及び地方公共団体の公務、又は学校において教育又は研究に直接携わる公共的な業務等に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた方に授与されます。誠にありがとうございました。

賛助会員一覧



相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-31-2
Tel: 042-366-1201
<http://www.aida-j.jp>



石福金属興業株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-20-7
Tel: 03-3252-8471
<http://www.ishifuku.co.jp>



医歯薬出版株式会社
〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10
Tel: 03-5395-7630
<http://www.ishiyaku.co.jp>



Ivoclar Vivadent株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24
Tel: 03-6801-1301
<http://www.ivoclarvivadent.jp>



ウルトラデントジャパン株式会社
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-5
初台村上ビル4F
Tel: 03-5365-1760
<http://www.ultradentjapan.com>



長田電機工業株式会社
〒141-8517 東京都品川区西五反田5-17-5
Tel: 03-3492-7651
<http://osada-group.jp/>



カボデンタルシステムズ株式会社オームコジャパン
〒140-0001 東京都品川区北品川4-7-35
御殿山トラストタワー15階
Tel: 03-6859-0065
<http://www.kavo.co.jp>



クインテッセンス出版株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-6
クイントハウスビル
Tel: 03-5842-2270
<https://www.quint-j.co.jp/>



グラクソスミクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR
Tel: 03-4231-5108
<http://glaxosmithkline.co.jp/gsk-chj/>



クラレノリタケデンタル株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3
大手センタービル
Tel (フリーダイヤル): 0120-330922
<http://www.kuraraynoritake.jp/>



サンメディカル株式会社
〒524-0044 滋賀県守山市古高町571-2
Tel: 077-582-9981
<http://www.sunmedical.co.jp>



株式会社ジーシー
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-14
Tel (お客様窓口): 0120-416480
<http://www.gcdental.co.jp/>



株式会社松風
〒605-0983 京都市東山区福稲上高松町11

Tel: 075-561-1112
<http://www.shofu.co.jp/>



スリーエム ジャパン株式会社
〒141-8684 東京都品川区北品川6-7-29

Tel (コールセンター): 0120-332329
<http://www.mmm.co.jp/hc/dental/>



デンツプライシロナ株式会社
〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10

Tel (フリーダイヤル): 0120-789123
<https://www.dentsplysirona.com>



株式会社東京技研
〒158-0087 東京都世田谷区玉堤1-25-13

Tel: 03-3703-5581
<http://www.tokyogiken.com/>



株式会社トクヤマデンタル
〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
イトーピア清洲橋通ビル7F
Tel (フリーダイヤル): 0120-54-1182
<https://www.tokuyama-dental.co.jp>



ペントロン ジャパン株式会社
〒140-0014 東京都品川区大井4-13-17-5F-6F

Tel: 03-5746-0316
<http://www.j-pentron.com/>



株式会社メディカルネット
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14
宝ビル 3階
Tel: 03-5790-5263
<https://www.dentwave.com/>



株式会社茂久田商会
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4-7-5

Tel: 078-303-8241
<http://www.mokuda.co.jp/>



株式会社モモセ歯科商会
〒543-8691 大阪市天王寺区南河堀町6-35

Tel: 06-6773-3333
<http://www.momose-dm.co.jp>



株式会社モリタ
〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18

Tel: 06-6380-2525
<http://www.dental-plaza.com>



株式会社モリムラ
〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10

Tel: 03-3836-1871
<http://www.morimura-jpn.co.jp/>



株式会社ヨシダ
〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9

Tel (コンタクトセンター): 0120-178-148
<http://www.yoshida-dental.co.jp>



JAPAN ACADEMY OF ESTHETIC DENTISTRY

発行人／藤澤 政紀

編集／一般社団法人日本歯科審美学会
広報委員会

印刷／三宝印刷株式会社

一般社団法人日本歯科審美学会

www.jdshinbi.net/